

まどか保育園 事業報告書 (2019年度)

社会福祉法人 まどか保育園

1 当該年度において当保育園へ入所された乳幼児は、年度当初定員80名に対し74名。年度途中で入退所があり、年度末には82名であった。当園では、これら乳幼児に対して、それぞれの家庭や地域社会との連携を密にして、国が示す子ども子育て支援法、保育指針、園で策定した保育所運営規程等に基づき策定した保育の計画（理念・方針・指導計画等）に沿った適切な保育を、全職員が協力して実施に当たった。

2 家庭や地域社会との連携について

(1) 園と家族との連携を密にするため、「入園のしおり」「園だより」「保健だより」「給食だより」等を発行して、保育に対する各家庭の理解と協力を求めるとともに、園児の登降園時の送迎等の際にも、さまざまな状況等を密接に連絡し合うよう努めた。

(2) うんどう会やおゆうぎ会、保育参観等の行事をとおして保護者に保育活動の状況を公開した。なお、保育参観の際は、育児講座、給食試食会、乳児保護者のふれあいサークルを実施した。各家庭から積極的な参加が得られた。

(3) 園児と地域老人や異年齢児との交流親和を図るため各種の行事を行った。新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、計画していた小学校との交流・地域老人との交流が2月以降中止になったことが残念だった。(別紙参照)

(4) 園児の情操を高め、また、季節感を演出するため、七夕まつり、夏まつり、餅つき、豆まき、ひなまつり等の行事を行った。また、各行事において家庭の協力が多数得られた。

3 保育活動の実践について

当園の保育の計画に沿って、それぞれの園児の発育発達状況に留意し、保育者の愛情と知性と技術とが個々に充分向けられるよう配慮しながら、保育活動を実施した。園児が自発的に取り組めるような環境設定に留意するとともに、音楽的豊かさや運動能力を発達助長する遊びや活動、友達とのつながりを深める遊び、体験学習に基づいた保育をするよう心がけた。今年度は、年長児年中児を対象に、外部講師による英語教室を年間を通し実施した。英語に興味を示し、会話や歌・ジェスチャーなど遊びの中で楽しく活動できた。

4 給食について

園児の発育発達における重要な部分と位置付け、給食食育の年間計画を立てて進めた。調理では、栄養バランス及び季節感のある給食を目指し、必要な栄養量の確保、旬の食材や行事食の取り入れ、嗜好を生かす等に配慮した。手作りのおやつも週5回を目標に実施した。食育活動では、園内花壇での夏野菜作りや大根人参作り、畑でさつまいもの苗さしから収穫までの栽培活動、カレーやおやつ作り等の調理体験、年長児のプチクッキングをして、食事をいただくまでの過程を学んだ。年長児親子のクッキング教室も行った。衛生管理について毎月の検便を全職員が確実に行うとともに、手洗いの励行、事故防止への配慮を行った。特にアレルギー対応や食中毒等の安全対策では園と家庭との連絡を徹底した。

5 職員研修について

計画的に園内研修を実施するとともに、園外の各種研修会にも多く参加し、職員の資質向上に努めた。

6 保健・安全等その他

(1) 嘱託医に依頼して、園児の健康診断、歯科健診を年各2回実施した。未受診の園児についても後日受診し、全園児について健康状態の把握を行った。

(2) 専門業者に依頼して、園児の尿検査を年2回実施し、全園児について健康状態の把握を行った。

(3) 人吉予防医療センター、公立多良木病院総合健診センター「コスモ」に依頼して、職員の健康診断を実施、労務管理を適切にしっかり行う等、健康安全等に配慮した。

(4) 災害対策マニュアル、災害訓練計画に基づき、毎月災害訓練を実施した。上球磨消防署に依頼して、火災避難訓練、消火訓練、施設立ち入り検査等の指導をしていただいた。また、定期的に地震訓練、防犯訓練、台風水害・竜巻突風の避難訓練も行った。

(5) 交通安全指導計画に基づき、毎月交通安全指導を実施した。交通安全の日（毎月20日）を設け、園児の登降園時に保護者による「交通安全まどかニコニコクラブ」が街頭指導をした。

(5) 保育環境の安全・衛生に留意して、整備や工事、備品取得を行った。

7 その他の保育事業の実施について

延長保育事業および自主事業として一時預かり保育を行った。